

11 壁

非耐力壁 (5.9.1)
 ○柱口の形状、留付け釘の種類、留付け方法、接合金物等 ※図示 (5.9.2)
 軸組耐力壁
 ○軸組耐力壁の留付け方法、接合金物 ※図示
 ○軸組の柱脚・柱頭の柱口形状 ※図示
 大壁造の耐力壁耐力壁 (5.9.3) (表5.9.1)
 構造用面材の種類 寸法・厚さ 留付け釘の種類・間隔

構造用面材の種類	寸法・厚さ	留付け釘の種類・間隔
縦線・受材 樹種・寸法・釘の種類・間隔・φ mm (5.9.3(a)(2))		
床造り大壁造の耐力壁耐力壁 ・下記による ※図示 (5.9.4)(表5.9.2)		
構造用面材の種類	寸法・厚さ	留付け釘の種類・間隔
構造用せつこうボードA種		
構造用せつこうボードB種		
せつこうボード		
受材 樹種・寸法・釘の種類・間隔・φ mm (5.9.4(a)(2))		
真壁造の耐力壁耐力壁 ・下記による ※図示 (5.9.5)(表5.9.3)		
構造用面材の種類	寸法・厚さ	留付け釘の種類・間隔
受材及び真壁 樹種・寸法・釘の種類・間隔・φ mm (5.9.5(a)(3))		
真壁造土壁耐力壁 樹種・断面寸法・工法等 ※図示による (5.9.6)		
面格子耐力壁 樹種・断面寸法・工法等 ※図示による (5.9.7)		
滑り止め耐力壁 樹種・断面寸法・工法等 ※図示による (5.9.8)		
鉄筋耐力壁 樹種・断面寸法・工法等 ※図示による (5.9.9)		
大臣認定耐力壁 ・適用する 材料・工法等 ※図示による (5.9.10)		

12 柱

1. 適用範囲 (7.1.1)
 構造耐力上主要な部分(基礎及び基礎梁を除く。)に軸組構造を用いた建築物に適用する。

2. 木材等 (7.2.2)
 (a) 構造耐力上主要な部分に用いる軸組材
 ・軸組壁工法構造用材材「甲種軸組材」 ・下記による ※図示 (7.2.2(a))

規格	樹種	等級	寸法形式
・甲種・乙種・SMR			
・甲種・乙種・SMR			
・甲種・乙種・SMR			
・甲種・乙種・SMR			

(b) 構造用単板積層材
 ・構造用単板積層材材「G」 ・下記による ※図示 (6.2.2(2))

寸法(mm)	等級	樹種	接着性能	ヤング係数区分

(c) 製材
 製材の含水率 %以下 ※図示 (6.2.2(3))
 ○目視等級区分構造用製材材「G」 ・下記による ※図示 (6.2.2(3))

寸法(mm)	樹種	構造材の種類	等級

○機械等級区分構造用製材材「G」 ・下記による ※図示 (6.2.2(3))

寸法(mm)	樹種	曲げ性能等級	特記

・国土交通大臣の指定を受けた製材 含水率 % ※図示 (6.2.2(3)(e))
 ○広葉樹製材材「G」 ・下記による ※図示 (6.2.2(3))

寸法(mm)	樹種	等級	特記

○無等級材材「G」 ・下記による ※図示 (6.2.2(3))

寸法(mm)	樹種	材面の品質

(d) 軸組壁工法構造用材材、たて組ぎ材 特記なきは「7. 軸組壁工法工事」による。
 ・国土交通大臣の指定を受けたMFR製材材 含水率 % (6.2.2(4)(5))
 (e) 木質接着成形軸組材材、木質接着複合パネル等「G」 ・下記による ※図示 (6.2.2(6))

寸法(mm)	形状	寸法	特記
			含水率 % 以下

○構造用面材材「G」 ・下記による ※図示 (6.2.3)

面材種別	等級	厚さ	板面の品質	曲げ強区分	接着剤区分	難燃性区分
構造用合板						
パーティクルボード						
構造用パネル						

13 接合金物等

○接合金物の材質 (屋内) ※SS400・SM40A (6.2.4)
 (屋外) ※ステンレス鋼製 ※図示
 ○釘、木ねじ、ボルトの品質、寸法、形状 ※図示
 ○ラグスクリー、ドリフトピン等の形状、寸法、長さ ※図示
 ○接着剤の種類 ※図示
 ・床書き原寸図 ・作成する ・作成しない (6.4.2)
 ○表面の仕上げ (a) 集材材 ・A種 ※B種 (6.4.4)
 (b) 製材材 (機械加工) ・A種 ※B種 ・C種 (手加工) ・A種 ・B種 ・C種

14 木材の加工

○アンカーボルトの寸法、埋込み深さ ※図示
 ・アンカーボルトの保持、埋込み工法 ・A種 ・B種
 ○基礎天端、柱底均しモルタル 厚さ ※20mm程度 工法 ・A種 ※B種 (5.5.4)
 無収縮モルタルの適用 ・有り ※無し

15 接合金物の工法

○構造材を接合する釘及び木ねじの種類、本数、間隔 ※図示 (6.5.8)
 ・熱橋を形成する位置の接合金物 ・現場発泡断熱材 ※図示 (6.5.9)
 各接合金物の工法 (6.5.10)
 ○釘及び木ねじの種類・間隔 ※図示 (6.5.11)
 ○各種ボルトの種類・径・本数等 ※図示 (6.5.12)
 ○ラグスクリー 形状・寸法 ※図示 (6.5.13)
 ・ドリフトピン 径 ※図示 (6.5.14)
 ・木だば 径 ※図示 (6.5.15)
 ・輪型ジベル接合 種類・材質・形状・寸法等 ※図示 (6.5.16)
 ・圧入型ジベル接合 種類・材質・形状・寸法等 ※図示 (6.5.16)

16 軸組

土台 ○樹種及び断面寸法 ※図示 (6.6.1)
 ○土口及び継手の形状・位置 ※図示 (6.6.2)
 火打土台 ・木材 樹種及び断面寸法 ※図示 (6.6.3)
 柱 ・鋼製火打土台 ※図示 (6.6.3)
 ○柱の樹種及び断面寸法 ※図示 (6.6.3)
 ・隅柱・通し柱の樹種及び断面寸法 ※図示 (6.6.3)
 ・仕口形状 ※図示 (6.6.3)

17 小屋組

小屋梁(平陸梁) ○樹種及び断面寸法 ※図示 (6.7.1)
 ○土口及び継手の形状・位置、接合金物 ※図示 (6.7.2)
 小屋束 ○樹種及び断面寸法 ※図示 (6.7.3)
 ○仕口形状、接合金物 ※図示 (6.7.3)
 垂り梁(合掌) ・樹種及び断面寸法 ※図示 (6.7.4)
 ・仕口形状、接合金物 ※図示 (6.7.4)
 斜材 ○樹種及び断面寸法 ※図示 (6.7.5)
 棟木・母屋 ○樹種及び断面寸法、接合金物 ※図示 (6.7.6)
 ○継手形状及び位置、接合金物 ※図示 (6.7.6)
 桁行筋かい・振れ止め ○樹種及び断面寸法 ※図示 (6.7.7)
 ○留付け釘の種類及び留付け方法 ※図示 (6.7.7)
 蓋木 ○樹種及び断面寸法 ※図示 (6.7.7)
 ○留付け釘の種類及び留付け方法、接合金物 ※図示 (6.7.7)
 火打梁 ○樹種及び断面寸法 ※図示 (6.7.8)
 ・木材 樹種及び断面寸法 ※図示 (6.7.8)
 ・仕口形状、接合金物 ※図示 (6.7.8)
 ○鋼製火打梁 ※図示 (6.7.8)

18 床組

床組は、5. 軸組構造(壁構造系)工事 10. 床組による。(6.8.1~6.8.7)

19 柱

1. 適用範囲 (7.1.1)
 構造耐力上主要な部分(基礎及び基礎梁を除く。)に軸組構造を用いた建築物に適用する。

2. 木材等 (7.2.2)
 (a) 構造耐力上主要な部分に用いる軸組材
 ・軸組壁工法構造用材材「甲種軸組材」 ・下記による ※図示 (7.2.2(a))

規格	樹種	等級	寸法形式
・甲種・乙種・SMR			
・甲種・乙種・SMR			
・甲種・乙種・SMR			
・甲種・乙種・SMR			

(b) 構造用単板積層材
 ・構造用単板積層材材「G」 ・下記による ※図示 (7.2.2(b))

寸法(mm)	等級	樹種	接着性能	ヤング係数区分

(c) 製材
 製材の含水率 %以下 ※図示 (7.2.2(c))
 ○目視等級区分構造用製材材「G」 ・下記による ※図示 (7.2.2(c))

寸法(mm)	樹種	構造材の種類	等級

○機械等級区分構造用製材材「G」 ・下記による ※図示 (7.2.2(c))

寸法(mm)	樹種	曲げ性能等級	特記

・国土交通大臣の指定を受けた製材 含水率 % ※図示 (7.2.2(c)(e))
 ○広葉樹製材材「G」 ・下記による ※図示 (7.2.2(c))

寸法(mm)	樹種	等級	特記

○無等級材材「G」 ・下記による ※図示 (7.2.2(c))

寸法(mm)	樹種	材面の品質

(d) 軸組壁工法構造用材材、たて組ぎ材 特記なきは「7. 軸組壁工法工事」による。
 ・国土交通大臣の指定を受けたMFR製材材 含水率 % (7.2.2(4)(5))
 (e) 木質接着成形軸組材材、木質接着複合パネル等「G」 ・下記による ※図示 (7.2.2(6))

寸法(mm)	形状	寸法	特記
			含水率 % 以下

○構造用面材材「G」 ・下記による ※図示 (7.2.2(3))

面材種別	等級	厚さ	板面の品質	曲げ強区分	接着剤区分	難燃性区分
構造用合板						
パーティクルボード						
構造用パネル						

20 柱

1. 適用範囲 (7.1.1)
 構造耐力上主要な部分(基礎及び基礎梁を除く。)に丸太組構造を用いた建築物に適用する。

2. 木材等 (7.2.2)
 (a) 構造耐力上主要な部分に用いる丸太組材
 ・丸太組壁工法構造用材材「甲種丸太組材」 ・下記による ※図示 (7.2.2(a))

規格	樹種	等級	寸法形式
・甲種・乙種			
・甲種・乙種			
・甲種・乙種			
・甲種・乙種			

(b) 構造用単板積層材
 ・構造用単板積層材材「G」 ・下記による ※図示 (7.2.2(b))

寸法(mm)	等級	樹種	接着性能	ヤング係数区分

(c) 製材
 製材の含水率 %以下 ※図示 (7.2.2(c))
 ○目視等級区分構造用製材材「G」 ・下記による ※図示 (7.2.2(c))

寸法(mm)	樹種	構造材の種類	等級

○機械等級区分構造用製材材「G」 ・下記による ※図示 (7.2.2(c))

寸法(mm)	樹種	曲げ性能等級	特記

・国土交通大臣の指定を受けた製材 含水率 % ※図示 (7.2.2(c)(e))
 ○広葉樹製材材「G」 ・下記による ※図示 (7.2.2(c))

寸法(mm)	樹種	等級	特記

○無等級材材「G」 ・下記による ※図示 (7.2.2(c))

寸法(mm)	樹種	材面の品質

(d) 丸太組壁工法構造用材材、たて組ぎ材 特記なきは「7. 丸太組壁工法工事」による。
 ・国土交通大臣の指定を受けたMFR製材材 含水率 % (7.2.2(4)(5))
 (e) 木質接着成形丸太組材材、木質接着複合パネル等「G」 ・下記による ※図示 (7.2.2(6))

寸法(mm)	形状	寸法	特記
			含水率 % 以下

○構造用面材材「G」 ・下記による ※図示 (7.2.2(3))

面材種別	等級	厚さ	板面の品質	曲げ強区分	接着剤区分	難燃性区分
構造用合板						
パーティクルボード						
構造用パネル						

21 接合金物等

○接合金物の材質 (屋内) ※SS400・SM40A (7.2.4)
 (屋外) ※ステンレス鋼製 ※図示
 ○釘、木ねじ、ボルトの品質、寸法、形状 ※図示
 ○ラグスクリー、ドリフトピン等の形状、寸法、長さ ※図示
 ○接着剤の種類 ※図示
 ・床書き原寸図 ・作成する ・作成しない (7.4.2)
 ○表面の仕上げ (a) 集材材 ・A種 ※B種 (7.4.4)
 (b) 製材材 (機械加工) ・A種 ※B種 ・C種 (手加工) ・A種 ・B種 ・C種

22 木材の加工

○アンカーボルトの寸法、埋込み深さ ※図示
 ・アンカーボルトの保持、埋込み工法 ・A種 ・B種
 ○基礎天端、柱底均しモルタル 厚さ ※20mm程度 工法 ・A種 ※B種 (7.5.4)
 無収縮モルタルの適用 ・有り ※無し

23 接合金物の工法

○構造材を接合する釘及び木ねじの種類、本数、間隔 ※図示 (7.5.8)
 ・熱橋を形成する位置の接合金物 ・現場発泡断熱材 ※図示 (7.5.9)
 各接合金物の工法 (7.5.10)
 ○釘及び木ねじの種類・間隔 ※図示 (7.5.11)
 ○各種ボルトの種類・径・本数等 ※図示 (7.5.12)
 ○ラグスクリー 形状・寸法 ※図示 (7.5.13)
 ・ドリフトピン 径 ※図示 (7.5.14)
 ・木だば 径 ※図示 (7.5.15)
 ・輪型ジベル接合 種類・材質・形状・寸法等 ※図示 (7.5.16)
 ・圧入型ジベル接合 種類・材質・形状・寸法等 ※図示 (7.5.16)

24 5. 工法

・釘及び木ねじの工法 (7.5.6)
 釘の種類・間隔、打ち方 ※国土交通省告示第1540号(軸組壁工法技術基準)による。

25 6. 土台

・土台の断面寸法 (×) mm ※図示 (7.6.1)
 ・土口及び継手形状・築結方法 ※図示 (7.6.1)

26 7. 床組

・床根木 断面寸法 (×) mm 間隔φ ※図示 (7.7.1(1))
 ・床根木の取付け方法・築結方法・補強方法 (7.7.1(1))
 ※国土交通省告示第1540号(軸組壁工法技術基準)による。
 ・図示 (7.7.1(1))
 ・床版に複合パネルの使用 木質断熱複合パネル ・使用する 木質接着複合パネル ・使用する (7.7.1(2))
 ・図示 (7.7.1(2))
 ・床材の取付け方法 ※国土交通省告示第1540号(軸組壁工法技術基準)による。
 ・図示 (7.7.2)

27 8. 壁軸組

・大引・床束 (7.7.2)
 部位 樹種 記号、寸法 間隔(mm) その他

部位	樹種	記号、寸法	間隔(mm)	その他
大引				
床束				

・東材を鋼製又は樹脂製とする場合 仕棟 () 設置方法 (・図示) (7.8.1(a))
 ・耐力壁のたて枠、下枠、上枠 ・下記による ※図示 (7.8.1(a))
 たて枠 寸法・図示 (×) mm 間隔・φ (7.8.1(a))
 下枠 寸法・図示 (×) mm (7.8.1(a))
 上枠 寸法・図示 (×) mm (7.8.1(a))
 ・頭つなぎを設けない場合 ※建築物全体の許容応力度計算を行う。 (7.8.1(a))
 ・開口上部まぐさ 材料・図示 (×) mm (7.8.1(a))
 ・断面寸法・図示 (×) mm (7.8.1(a))
 ・壁軸組の補強方法 築結方法・たて枠突き込み ※図示 (7.8.1(a))
 ※国土交通省告示第1540号(軸組壁工法技術基準)による。
 ・壁版に複合パネルの使用 木質断熱複合パネル ・使用する (7.8.1(a))
 木質接着複合パネル ・使用する (7.8.1(a))
 ・間仕切り壁(耐力壁以外)に薄板軽量形鋼の使用 寸法等 ※図示 (7.8.1(b))
 ・壁材の取付け方法 ※図示 (7.8.1(b))

28 9. 小屋組及び屋根

・部材の断面寸法図表 ・下記による ※図示 (7.9.1(a)(b))

部位	材料	記号、寸法	間隔(mm)	その他
蓋木				
鋼製天井根木				
蓋木				
鋼製天井根木				

・小屋組に複合パネルの使用 木質断熱複合パネル ・使用する (7.9.1(a))
 木質接着複合パネル ・使用する (7.9.1(a))
 ・トラス方式 ※図示 (7.9.1(b))
 ・屋根架方式・東立方式 ※図示 (7.9.1(b))
 ・小屋組材の釘・金物・取付け・築結方法等 ※図示 (7.9.1(b))
 ※国土交通省告示第1541号(壁・床版の構造方法)による。
 ・図示 (7.9.1(b))

29 丸太組

1. 適用範囲 (8.1.1)
 構造耐力上主要な部分(基礎及び基礎梁を除く。)に丸太組構造を用いた、延べ面積200㎡以下、高さ5m以下、壁を除く階数が以下(小屋束利用2階建ては可)、耐力壁相互の距離は6m以下で、かつ、耐力壁縁角より囲まれた部分の水平投影面積が300㎡以下の小規模建築物。

2. 材料 (8.2.2)
 丸太組壁用木材 ・下記による ※図示 (8.2.2)

部位	樹種	記号、寸法	含水率20%以下	その他
機械加工丸太				
手加工丸太				

丸太組壁以外に用いる木材 (8.2.3)
 ※製材は、本特記仕様書5. 軸組構造(壁構造系)工事2. 木材及び7. 軸組壁工法工事2. 木材等による。

構造用面材 (8.2.3)
 構造用面材は、本特記仕様書5. 軸組構造(壁構造系)工事3. 構造用面材による。

3. 接合金物等 (8.2.5(a))
 ・接合金物の材質 (屋内) ※SS400 (屋内) ※SS400 (屋外) ※ステンレス鋼製 (製作もの) 材質・形状寸法 ※図示 (8.2.5(a))
 表面処理 ※図示 (8.2.5(a))
 ・ラグスクリー 形状・寸法 ※図示 (8.2.5(b))
 表面処理 ・溶融亜鉛メッキ ・電気亜鉛めっき 錆止の塗装 ・防虫防蟻剤対応処理 (8.2.5(b))
 ・ジャッキボルトの塗金 ※図示 (8.2.5(c))
 ・垂木用スライド金物 ※図示 (8.2.5(d))
 ・釘、木ねじの材質、寸法、形状等 ※図示 (8.2.5(e))
 ・ボルト、アンカーボルト、ナット及び産金 (8.2.5(f)) 表8.2.6~8
 ナット ・表8.2.6による 産金種別 ・引張用 () ・圧縮用 () (8.2.5(f))
 ナット ・表8.2.6による アンカーボルト 材質 ※SS400 (8.2.5(f))
 ・通しボルト呼び径、産金、呼び径 ※図示 産金種別 ・引張用 () ・圧縮用 () (8.2.5(f))
 ・床鳴り防止用接着剤の適用、種類、適用 ・する(種類※図示) (8.2.5(h))
 丸太組壁用木材 ・断面形状 (イ) ・(ロ) ・(ハ) ・(ニ) (8.2.4)
 ・部材寸法 ※図示 (8.2.4)

丸太組壁用木材の交差部 ・壁間より200mm未満の場合の補強方法 ※図示 (8.4.3)
 丸太組壁以外に用いる木材 ・仕口継ぎの工法 ※図示 (8.4.6)
 ・専ら仕上げ ・A種 ※B種 ・C種 (8.4.6)
 ・木材保護塗料塗りの適用 ・適用しない (8.4.6)
 丸太組壁の端部及び開口部等に補強材を入れる場合の樹種・断面寸法・取付け工法等 ※図示 (8.4.8)

仮組立 機械加工材 行方 ・行わない (8.5.3)
 手加工材 行方 ・行わない (8.5.3)
 ・アンカーボルトの寸法、埋込み深さ ※図示 (8.5.3)
 ・アンカーボルトの保持、埋込み工法 ・A種 ・B種 (8.5.4)
 基礎天端、柱底均しモルタル 厚さ ※20mm程度 無収縮モルタルの適用 ・有り ・無し (8.5.4)
 だばの工法 ・木だばの本数・間隔 ※図示 (8.5.6)
 ・鋼製だばの本数・間隔 ※図示 (8.5.6)
 ・ラグスクリーだばの形状・寸法・本数・間隔・産金 ※図示 (8.5.6)

通しボルトの工法 (8.5.7)
 ・通しボルトの種類・径・本数・間隔・産金 ※図示 (8.5.7)
 ・耐力壁の上端部・中間部での締め付け・増締め工法 ※図示 (8.5.7)
 ・共通仕様書以外の増締め時期 ※図示 (8.5.7)

ジャッキボルトの工法 (8.5.8)
 ・共通仕様書以外の増締め時期 ※図示 (8.5.8)

垂木用スライド金物の工法 (8.5.9)
 ・取付け木ねじ及び釘の径・長さ・本数 ※図示 (8.5.9)

釘及び木ねじの工法 (8.5.11)
 ・各部位の釘の種類・間隔 ※図示 (8.5.11)
 ・仕上げ材とする場合の釘打ち ※図示 (8.5.11)
 ・隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つばし釘打ち ・釘頭埋め (8.5.11)

各種ボルトの工法 (8.5.12)
 ・ボルトの種類・径・本数・間隔・産金 ※図示 (8.5.12)
 ・木製火打土台の樹種・断面寸法 ※図示 (8.5.12)
 土台 (8.6.2)
 火打土台 ・土台の樹種・断面寸法、仕口及び継手の形状 ※図示 (8.6.2)
 ・鋼製火打土台の材質・断面寸法 ※図示 (8.6.2)
 ・火打土台を保持する釘の種類・間隔留め付け方法等 ※図示 (8.6.2)

30 7. 丸太組壁

出隅交差部の寸法が200mm未満の補強方法 ※図示 (8.6.3)
 耐力壁内のたば及び通しボルトの本数・位置 ※図示 (8.6.3)
 小屋組み方式 ・垂木方式 ・東立方式 (8.7.1)
 小屋組と耐力壁等との接合金物寸法 (8.7.1)

31 8. 小屋組

部材 接合金物の寸法

部材	接合金物の寸法
垂木と桁材等	
桁材と壁材等	

小屋梁等の仕様、接合金方法 ・下記による ※図示 (8.7.2)~(8.7.6)

部位	樹種	断面寸法	束口寸法	仕口	継手	接合金物・接合具
小屋梁						
小屋束						
垂り梁						
斜材						
棟木						
母屋						

桁行筋かい・振れ止め ・樹種・断面寸法 ※図示 (8.7.7)
 ・釘・留付け方法 ※図示 (8.7.7)
 蓋木 ・樹種・断面寸法 ※図示 (8.7.8)
 ・釘・留付け方法 ※図示 (8.7.8)
 ・軒先部の留付け方法、接合金物 ※図示 (8.7.10)

屋根野地板

種類	厚さ(mm)	備考
・ひき合板	※9	継手・取付方法 ※図示 (8.7.10)
・構造用合板	※9	接着の程度、釘種類、間隔 ※図示 (8.7.10)
・構造用パネル	※12	釘種類・間隔 ※図示 (8.7.10)

床組は、5. 軸組構造(壁構造系)工事 10. 床組みに寄る。(8.8.1~8.8.7)

木材の樹種・寸法 ※図示 (8.9.1)
 ジャッキボルトの形状・材質 ※図示 (8.9.2)
 間仕切り壁の木材の種類・樹種 ※図示 (8.9.3)
 屋外建具回り ・断熱材 ※図示 (8.9.9)
 ・防水テープ ※標準仕様書10.4.2、表10.4.1による。

32 9. 床組

10. 丸太組壁と取合う構造工事

1. 一般事項 (10.1.1)
 適用範囲 この章は、内装及び外装の木下地、木造作及び木仕上げの工事に適用する。(10.1.1)
 表面の仕上げ 製材・造作用集材材の機械加工 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 (10.1.3)
 木材の含水率 ※A種 ・B種 (10.1.3)

(a) 製材 (10.2.2)(1)
 (1) 「製材の日本農林規格」による製材 (10.2.2)(1)
 下地用針葉樹製材材「G」 ・下記による ※図示 (10.2.2)(1)

樹種	寸法(mm)	形状	等級	特記
			※2級	含水率 ※20%以下
				処理を施す上小屋以外小間以下

造作用針葉樹製材材「G」 ・下記による ※図示 (10.2.2)(1)

樹種	寸法(mm)	形状	等級	特記
			※1等	含水率 ※18%以下

(2) 「製材の日本農林規格」以外の製材 (10.2.2)(1)
 下地用針葉樹製材材「G」 ・下記による ※図示 (10.2.2)(1)

樹種	寸法(mm)	材面の品質	その他
			乾燥処理・適用 防虫処理・適用 難燃処理・適用

含水率 ※20%以下
 造作・仕上げ用針葉樹製材材「G」 ・下記による ※図示 (10.2.2)(1)

樹種	寸法(mm)	材面の品質	その他
			乾燥処理・適用 防虫処理・適用 難燃処理・適用

含水率 ※18%以下
 造作・仕上げ用広葉樹製材材「G」 ・下記による ※図示 (10.2.2)(1)

Table with 5 columns: 樹種(心材), 樹種(化粧薄板), 寸法(mm), 化粧薄板の厚さ, 材面の品質, その他. Includes sections for 化粧板積層材, 単板積層材, 下地用合板, and 構造用パネル.

Table with 3 columns: 名称, 樹種, 寸法. Includes sections for 1. 一般事項, 2. FRP系塗布防水, 3. シーリング, 4. パルコニーの手すり笠木, 5. 適用範囲, 6. 施工, 7. 床及び階段の石張り, 8. 陶磁器質タイル, 9. タイルの種類, 10. 床下の処理, 11. 土留, 12. 土留の工法.

Table with 3 columns: 名称, 樹種, 寸法. Includes sections for 1. 適用範囲, 2. 材料, 3. 材料, 4. 平葺(一字葺), 5. 瓦葺, 6. 横葺, 7. 立平葺, 8. 材料, 9. 工法, 10. 材料, 11. 材料, 12. 工法, 13. 材料, 14. 工法, 15. 材料, 16. 工法, 17. 材料, 18. 工法, 19. 材料, 20. 工法, 21. 材料, 22. 工法, 23. 材料, 24. 工法, 25. 材料, 26. 工法, 27. 材料, 28. 工法, 29. 材料, 30. 工法, 31. 材料, 32. 工法, 33. 材料, 34. 工法, 35. 材料, 36. 工法, 37. 材料, 38. 工法, 39. 材料, 40. 工法, 41. 材料, 42. 工法, 43. 材料, 44. 工法, 45. 材料, 46. 工法, 47. 材料, 48. 工法, 49. 材料, 50. 工法, 51. 材料, 52. 工法, 53. 材料, 54. 工法, 55. 材料, 56. 工法, 57. 材料, 58. 工法, 59. 材料, 60. 工法, 61. 材料, 62. 工法, 63. 材料, 64. 工法, 65. 材料, 66. 工法, 67. 材料, 68. 工法, 69. 材料, 70. 工法, 71. 材料, 72. 工法, 73. 材料, 74. 工法, 75. 材料, 76. 工法, 77. 材料, 78. 工法, 79. 材料, 80. 工法, 81. 材料, 82. 工法, 83. 材料, 84. 工法, 85. 材料, 86. 工法, 87. 材料, 88. 工法, 89. 材料, 90. 工法, 91. 材料, 92. 工法, 93. 材料, 94. 工法, 95. 材料, 96. 工法, 97. 材料, 98. 工法, 99. 材料, 100. 工法.

Table with 3 columns: 種類, 呼び名, 仕上げの形状, 工法, 備考. Includes sections for 1. 2. 下地処理, 3. 防火戸の指定, 4. 性能及び構造, 5. 材料, 6. 形状及び仕上げ, 7. 工法, 8. 性能及び構造, 9. 材料, 10. 形状及び仕上げ, 11. 工法, 12. 性能及び構造, 13. 材料, 14. 性能及び構造, 15. 材料, 16. 形状及び仕上げ, 17. 工法, 18. 材料, 19. 形状及び仕上げ, 20. 工法, 21. 材料, 22. 工法, 23. 材料, 24. 工法, 25. 材料, 26. 工法, 27. 材料, 28. 工法, 29. 材料, 30. 工法, 31. 材料, 32. 工法, 33. 材料, 34. 工法, 35. 材料, 36. 工法, 37. 材料, 38. 工法, 39. 材料, 40. 工法, 41. 材料, 42. 工法, 43. 材料, 44. 工法, 45. 材料, 46. 工法, 47. 材料, 48. 工法, 49. 材料, 50. 工法, 51. 材料, 52. 工法, 53. 材料, 54. 工法, 55. 材料, 56. 工法, 57. 材料, 58. 工法, 59. 材料, 60. 工法, 61. 材料, 62. 工法, 63. 材料, 64. 工法, 65. 材料, 66. 工法, 67. 材料, 68. 工法, 69. 材料, 70. 工法, 71. 材料, 72. 工法, 73. 材料, 74. 工法, 75. 材料, 76. 工法, 77. 材料, 78. 工法, 79. 材料, 80. 工法, 81. 材料, 82. 工法, 83. 材料, 84. 工法, 85. 材料, 86. 工法, 87. 材料, 88. 工法, 89. 材料, 90. 工法, 91. 材料, 92. 工法, 93. 材料, 94. 工法, 95. 材料, 96. 工法, 97. 材料, 98. 工法, 99. 材料, 100. 工法.

Table with 5 columns: 管理建築士, 承認, 検図, 製図, 履行年月日, 改定月日, 改定内容, 特記, 図面内容, 縮尺, コード番号, 図面番号, 図面区分.

宮古市宮古養護学童の家増改築工事

特記仕様書 №3

00

A-03

建築意匠図

27. 耐火ボックス 28. 水膨張性止水材 29. ガラス用フィルム 30. 化粧シート 31. ビクチャーレール 32. プレキャスト コンクリート 33. 間知石、 コンクリート 間知ブロック	鋼製 既製品 形状は共通詳細図による。 水膨張性ゴム (膨張遅延型) W20×t10 JIS A 5759 ガラス飛散防止性能 (A法・B法) 適合品 カタログ掲載価格 円/m ² 程度 素材: 塩化ビニル樹脂 形状: 幅1,200以上 法的に不燃材下地に施工した場合の防火性能: 不燃 アルミニウム製 既製品 補強鉄線の径 (mm) ※ 3.2以上 (20.3.2) コンクリートの設計基準強度 (FC) (20.3.3) ※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m ³ を満足する強度 取付金物 図示 (20.3.3) コンクリート埋込以外の取付金物は防錆処理を行う。 配筋 ※標仕 20.3.3(d)による (20.3.3) (20.4.2)
	区分 ・ 間知石 ・ コンクリート間知ブロック 地盤の材料 ・ 再生クラッシュラン ・ 切込砂利 ・ 切込採石 間知石積み 積み方 目差 伸縮継ぎ目の材料、厚さ (mm) ・ 布積み ※ 谷積み
1. 断熱 2. 遮音 3. 防湿 4. 防虫 5. 防霉 6. 防カビ 7. 防臭 8. 防汚 9. 防色褪 10. 防変色 11. 防劣化 12. 防老化 13. 防褪色 14. 防黄変 15. 防曇り 16. 防結露 17. 防凍害 18. 防凍結 19. 防凍害 20. 防凍害 21. 防凍害 22. 防凍害 23. 防凍害 24. 防凍害 25. 防凍害 26. 防凍害 27. 防凍害 28. 防凍害 29. 防凍害 30. 防凍害 31. 防凍害 32. 防凍害 33. 防凍害 34. 防凍害 35. 防凍害 36. 防凍害 37. 防凍害 38. 防凍害 39. 防凍害 40. 防凍害 41. 防凍害 42. 防凍害 43. 防凍害 44. 防凍害 45. 防凍害 46. 防凍害 47. 防凍害 48. 防凍害 49. 防凍害 50. 防凍害 51. 防凍害 52. 防凍害 53. 防凍害 54. 防凍害 55. 防凍害 56. 防凍害 57. 防凍害 58. 防凍害 59. 防凍害 60. 防凍害 61. 防凍害 62. 防凍害 63. 防凍害 64. 防凍害 65. 防凍害 66. 防凍害 67. 防凍害 68. 防凍害 69. 防凍害 70. 防凍害 71. 防凍害 72. 防凍害 73. 防凍害 74. 防凍害 75. 防凍害 76. 防凍害 77. 防凍害 78. 防凍害 79. 防凍害 80. 防凍害 81. 防凍害 82. 防凍害 83. 防凍害 84. 防凍害 85. 防凍害 86. 防凍害 87. 防凍害 88. 防凍害 89. 防凍害 90. 防凍害 91. 防凍害 92. 防凍害 93. 防凍害 94. 防凍害 95. 防凍害 96. 防凍害 97. 防凍害 98. 防凍害 99. 防凍害 100. 防凍害	サイテック材 (JIS A 5422) 種類、形状、長さ、幅、厚さ、表面仕上げ、耐凍害性能、防火・耐火性能 ※図示 (以外はM・F・S・Vによる) (19.3.2(a)) 透気阻断 樹種 ○ 行方 ・ 行わない (19.3.2(a)) サイテック材の張り方 ・ 縦張り工法 ・ 横張り工法 (19.3.2(a)) 建築上部の雨水排水路 設置位置等 ・ 図示 (19.3.2(a)) 金属留め工法で風速Voが42m/m ² を超える地域の補強方法 (19.3.2(a)) 現場塗装の下部処理 ・ 図示 (19.3.2(a)) サイテック材 (JIS A 6711) 種類、形状、長さ、幅、厚さ、表面材、しん材の種類、防火・耐火性能 ※図示 (19.3.3(a)) 透気阻断 樹種 ・ 杉 (19.3.3(a)) 防凍処理 ・ 行方 ・ 行わない (19.3.3(a)) サイテック材の張り方 ・ 縦張り工法 ・ 横張り工法 (19.3.3(a))

21. 舗装工事 22. 舗装工事 23. 舗装工事 24. 舗装工事 25. 舗装工事 26. 舗装工事 27. 舗装工事 28. 舗装工事 29. 舗装工事 30. 舗装工事 31. 舗装工事 32. 舗装工事 33. 舗装工事 34. 舗装工事 35. 舗装工事 36. 舗装工事 37. 舗装工事 38. 舗装工事 39. 舗装工事 40. 舗装工事 41. 舗装工事 42. 舗装工事 43. 舗装工事 44. 舗装工事 45. 舗装工事 46. 舗装工事 47. 舗装工事 48. 舗装工事 49. 舗装工事 50. 舗装工事 51. 舗装工事 52. 舗装工事 53. 舗装工事 54. 舗装工事 55. 舗装工事 56. 舗装工事 57. 舗装工事 58. 舗装工事 59. 舗装工事 60. 舗装工事 61. 舗装工事 62. 舗装工事 63. 舗装工事 64. 舗装工事 65. 舗装工事 66. 舗装工事 67. 舗装工事 68. 舗装工事 69. 舗装工事 70. 舗装工事 71. 舗装工事 72. 舗装工事 73. 舗装工事 74. 舗装工事 75. 舗装工事 76. 舗装工事 77. 舗装工事 78. 舗装工事 79. 舗装工事 80. 舗装工事 81. 舗装工事 82. 舗装工事 83. 舗装工事 84. 舗装工事 85. 舗装工事 86. 舗装工事 87. 舗装工事 88. 舗装工事 89. 舗装工事 90. 舗装工事 91. 舗装工事 92. 舗装工事 93. 舗装工事 94. 舗装工事 95. 舗装工事 96. 舗装工事 97. 舗装工事 98. 舗装工事 99. 舗装工事 100. 舗装工事	(適用範囲) この章は、主として構内の舗装工事に適用し、この章に規定する事項以外は、「公共建築工事標準仕様書 (建築工事編)」22章「舗装工事」による。
	1. 路床 2. 路盤材料 3. アスファルト舗装 4. コンクリート舗装 5. カラー舗装 6. 透水性アスファルト舗装 7. 排水性アスファルト舗装 8. ブロック系舗装 9. 側溝・縁石 10. 砂利敷き

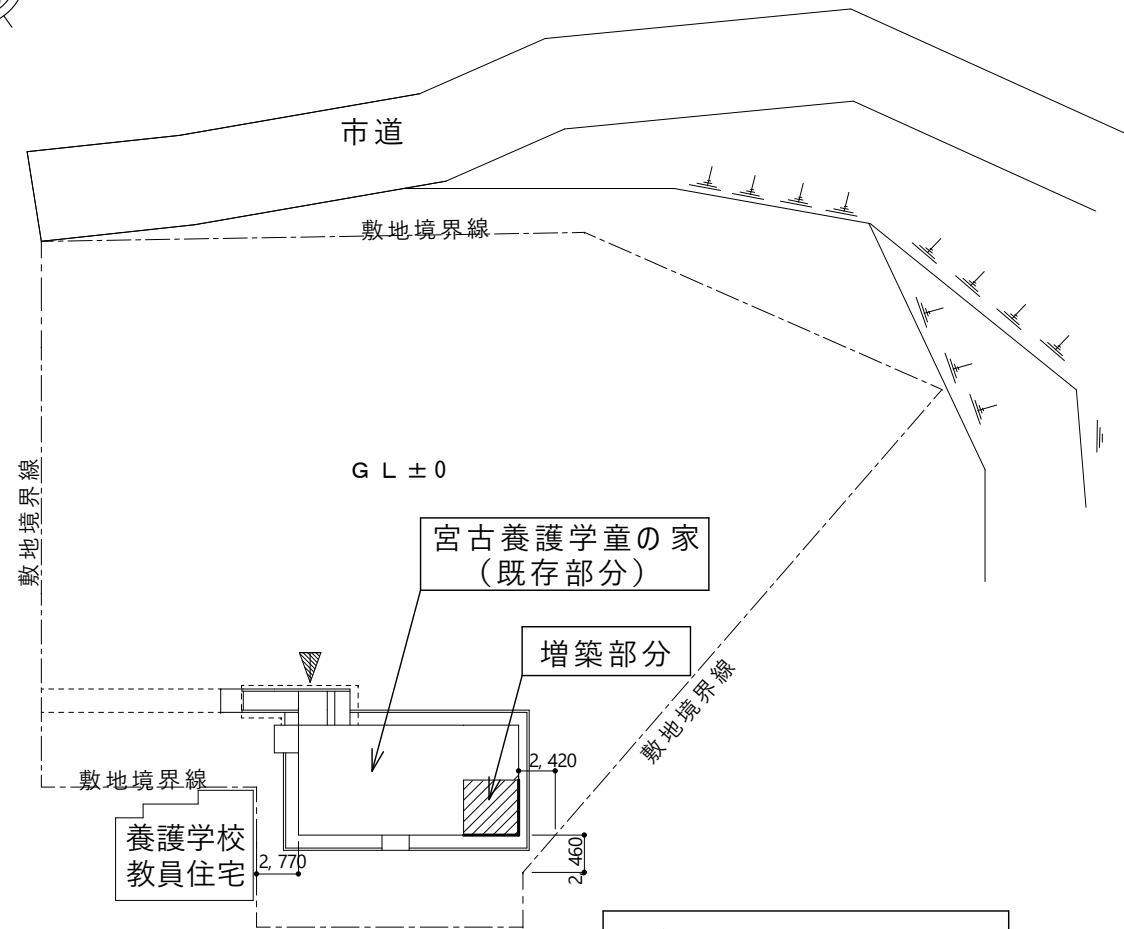
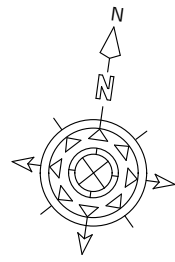
21. 植栽工事 22. 植栽工事 23. 植栽工事 24. 植栽工事 25. 植栽工事 26. 植栽工事 27. 植栽工事 28. 植栽工事 29. 植栽工事 30. 植栽工事 31. 植栽工事 32. 植栽工事 33. 植栽工事 34. 植栽工事 35. 植栽工事 36. 植栽工事 37. 植栽工事 38. 植栽工事 39. 植栽工事 40. 植栽工事 41. 植栽工事 42. 植栽工事 43. 植栽工事 44. 植栽工事 45. 植栽工事 46. 植栽工事 47. 植栽工事 48. 植栽工事 49. 植栽工事 50. 植栽工事 51. 植栽工事 52. 植栽工事 53. 植栽工事 54. 植栽工事 55. 植栽工事 56. 植栽工事 57. 植栽工事 58. 植栽工事 59. 植栽工事 60. 植栽工事 61. 植栽工事 62. 植栽工事 63. 植栽工事 64. 植栽工事 65. 植栽工事 66. 植栽工事 67. 植栽工事 68. 植栽工事 69. 植栽工事 70. 植栽工事 71. 植栽工事 72. 植栽工事 73. 植栽工事 74. 植栽工事 75. 植栽工事 76. 植栽工事 77. 植栽工事 78. 植栽工事 79. 植栽工事 80. 植栽工事 81. 植栽工事 82. 植栽工事 83. 植栽工事 84. 植栽工事 85. 植栽工事 86. 植栽工事 87. 植栽工事 88. 植栽工事 89. 植栽工事 90. 植栽工事 91. 植栽工事 92. 植栽工事 93. 植栽工事 94. 植栽工事 95. 植栽工事 96. 植栽工事 97. 植栽工事 98. 植栽工事 99. 植栽工事 100. 植栽工事	(適用範囲) この章は、樹木、芝張り、吹付けは種及び地被類の植栽工事に適用し、この章に規定する事項以外は、「公共建築工事標準仕様書 (建築工事編)」23章1節「一般事項」から4節「芝張り、吹付けは種及び地被類」までによる。
	1. 植栽地の確認等 2. 植栽基礎の整備 3. 有効土層の面積、厚さ、植栽基礎の工法 4. 土壌改良材 5. 植込み用土 6. 支柱材 7. 幹巻き用テープ 8. 芝 9. 吹付けは種 10. 新植、移植樹木 芝等の枯補償

21. 宮古市産材	木材については、宮古市産材若しくは岩手県産材を使用すよう努め、使用した場合は竣工時に産地を証する書類を提出するものとする。
22. その他の特記事項	

管理建築士	承認	検閲	製図	履行年月日	改定月日	改定内容

特記

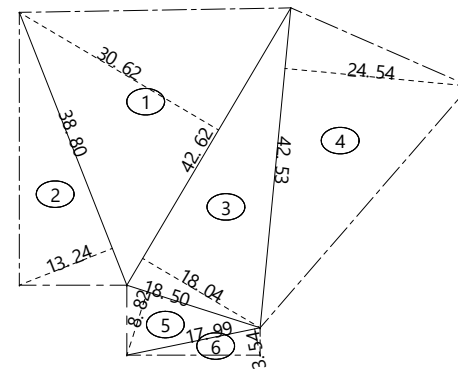
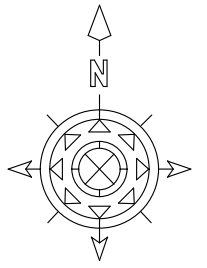
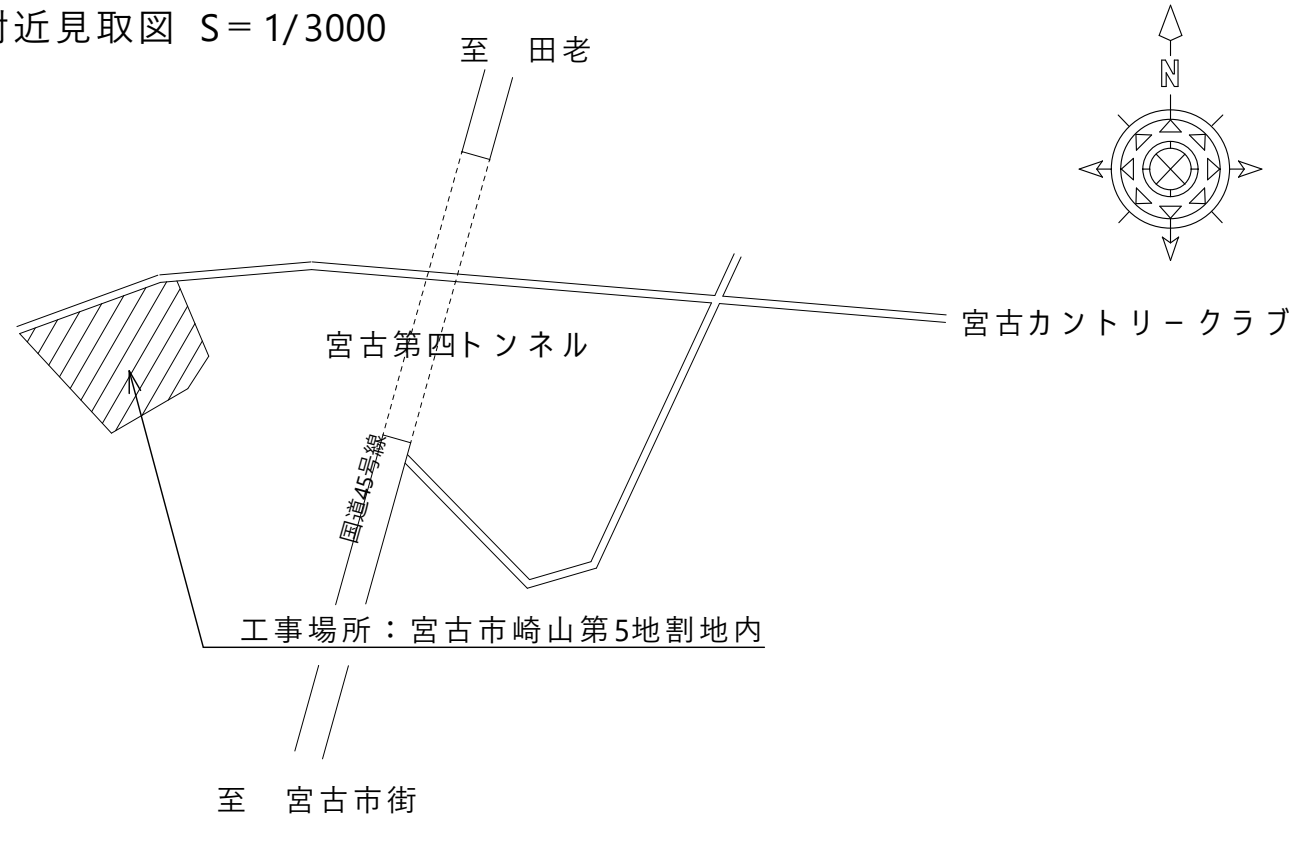
図面内容	縮尺	コード番号	0 0
特記仕様書 №5		図面番号	A - 0 5
		図面区分	建築意匠図



※既存部分：平成26年度増築工事
 確認済証 平成26年10月 7日
 第 H26計認建築限定宮古00006 号
 宮古市建築主事 吉野 靖
 検査済証 平成27年 3月12日
 第 H26計済建築限定宮古00014 号
 宮古市建築主事 吉野 靖

配置図 縮尺 1/500

附近見取図 S = 1/3000

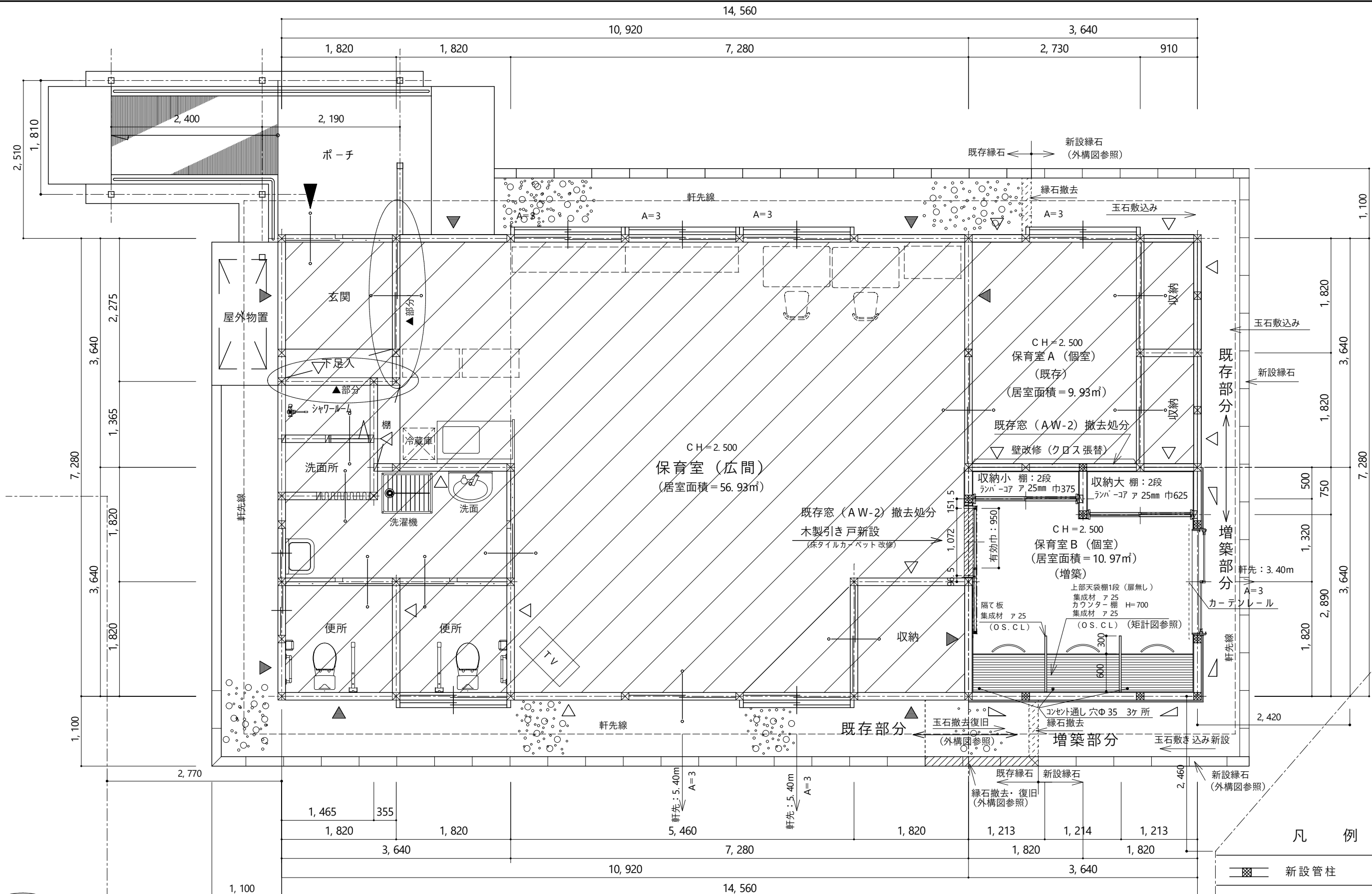
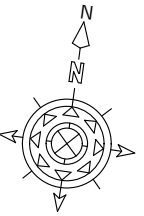


求積図 S=1/1,000

番号	底 辺	高 さ	倍 面 積	面 積
1	42.62	30.62	1,305.0244	652.51220
2	38.80	13.24	513.7120	256.85600
3	42.62	18.04	768.8648	384.43240
4	42.53	24.54	1,043.6862	521.84310
5	18.50	8.82	163.1700	81.58500
6	17.99	3.54	63.6846	31.84230
合 計				1,929.07100
敷地面積				1,929.07 m ²

面積計算書			
	申請部分	既存部分	合 計
建築面積	13.25m ²	104.84m ²	118.09m ²
延床面積	13.25m ²	92.74m ²	105.99m ²
敷地面積	1,929.07m ²		

宮古市宮古養護学童の家増改築工事	管理建築士	承認	検図	製図	履行年月日	改定月日	改定内容	特記	図面内容	縮尺	コード番号
									付近見取り図・配置図 ・求積図	A 3	0 0
										1: 500	図面番号
										1: 3000	A - 0 8
										1: 1000	図面区分 建築意匠図



▲部分
防火上主要な間仕切壁(1時間耐火)
片面施工耐火型 強化石膏ボード2重張り
スタッド50下地
(認定番号: FP060NP-0311)

凡例	
△	既存筋違 45×105(シングル) 壁倍率: 2.0
▲	既存筋違 45×105(ダブル) 壁倍率: 4.0
▽	新設筋違 45×105(シングル) 壁倍率: 2.0

平面図 S=1/60

凡例	
■	新設管柱 120×120
□	既存管柱 120×120

※ シックハウス対策、換気設備設置及び、筋違い位置については別図にします。

宮古市宮古養護学童の家増改築工事

管理建築士	承認	検図	製図	履行年月日	改定月日	改定内容	特記

縮尺	コード番号
A3 1:60	00
	図面番号 A-10
	図面区分 建築意匠図

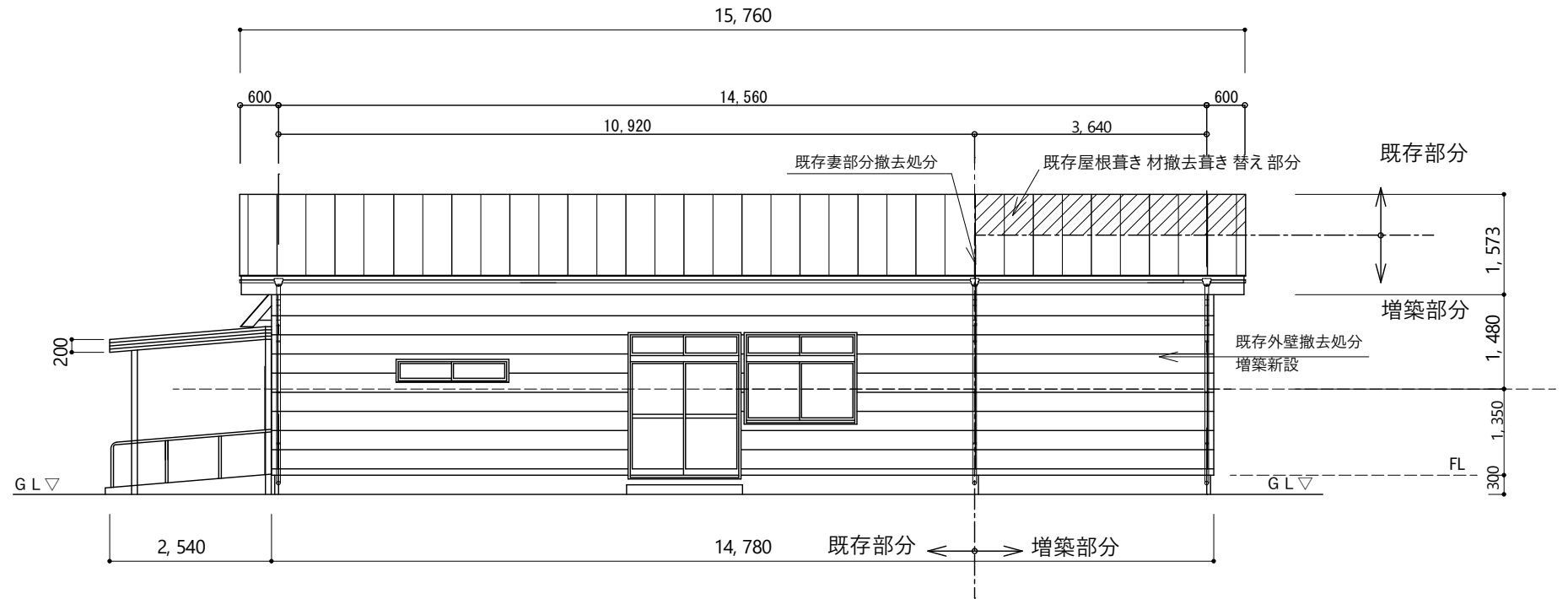
見つけ面積計算

Y方向見付け

Y F 1	15.76 × 1.573	= 24.79
	14.78 × 1.48	= 21.87
	2.54 × 0.20	= 0.51
合計		= 47.17

X方向見付け

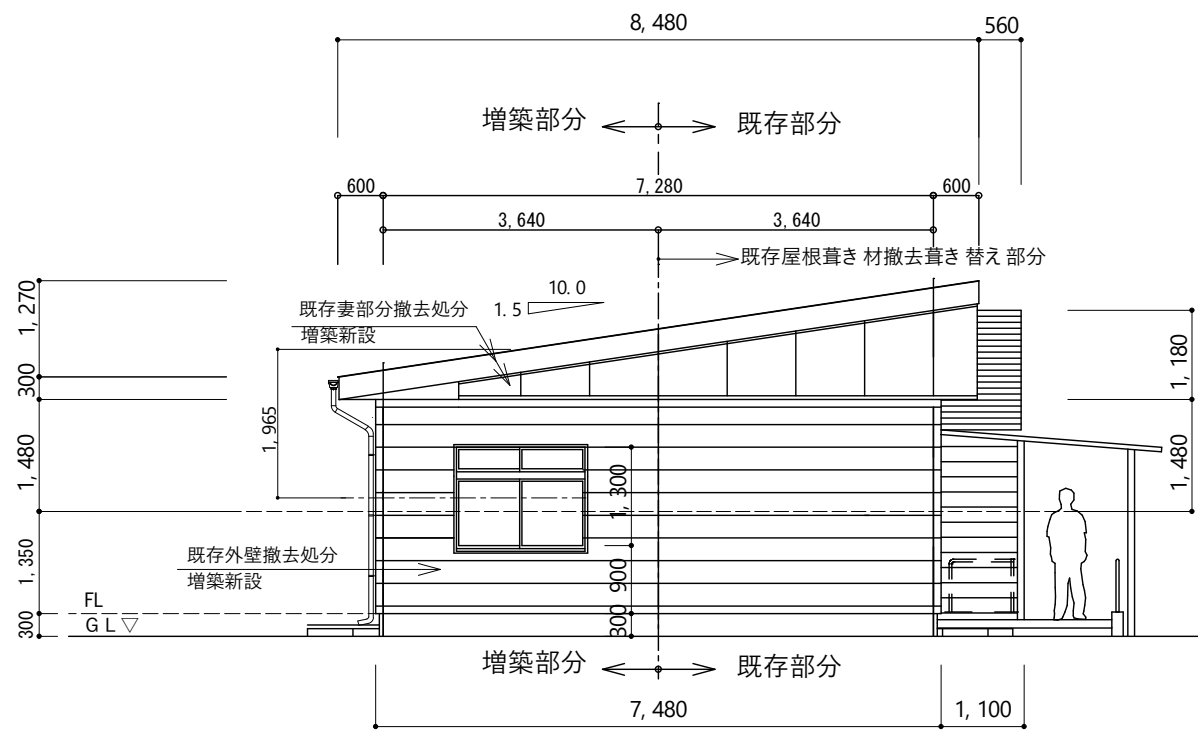
X F 1	8.48 × 1.27 × 0.5	= 5.38
	8.48 × 0.30	= 2.54
	7.48 × 1.48	= 11.07
	1.10 × 1.48	= 1.63
	0.56 × 1.18	= 0.66
合計		= 21.28



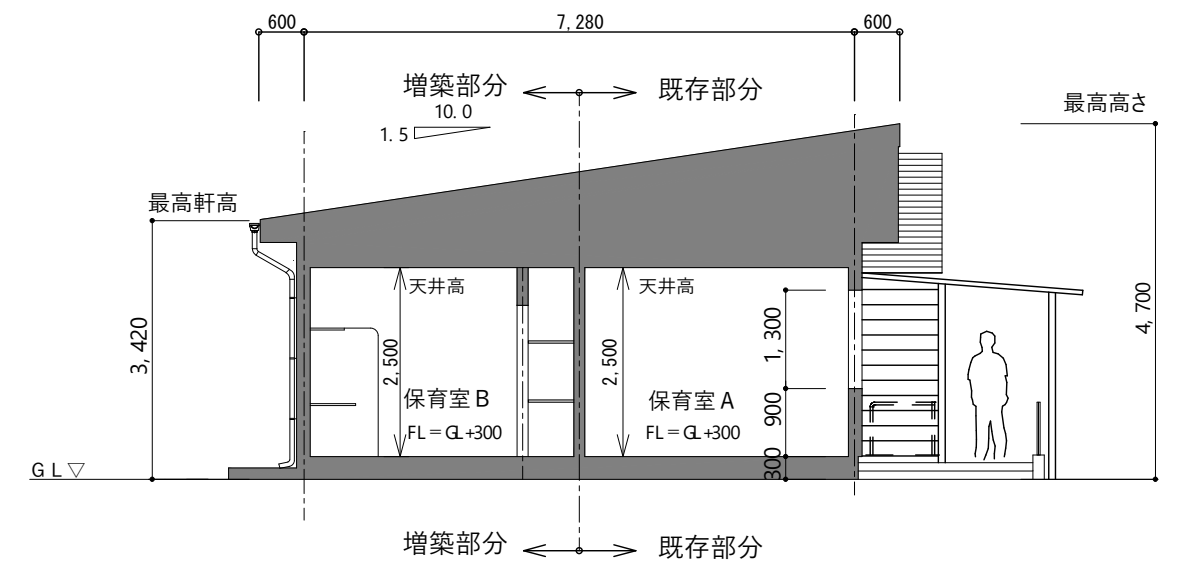
【 南側立面図 S=1/100 】

凡例

：既存屋根葺き材、下葺き材撤去処分



【 東側立面図 S=1/100 】



【 断面図 S=1/100 】

管理建築士	承認	検図	製図	履行年月日	改定月日	改定内容

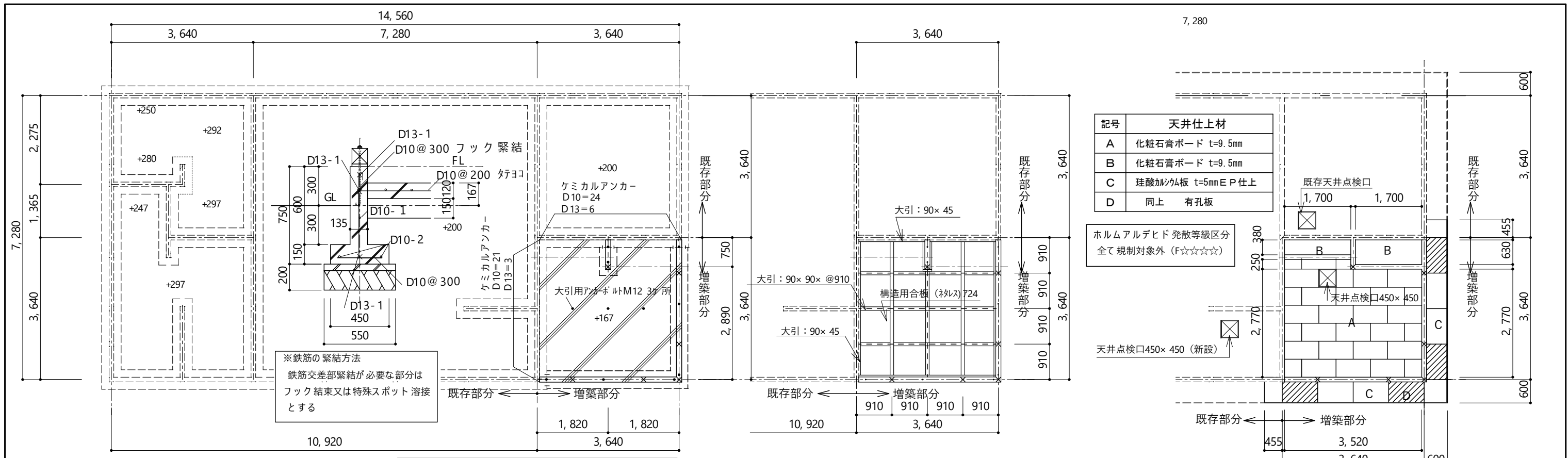
特記

図面内容

立面図・断面図

縮尺
A 3
1:100

コード番号	00
図面番号	A-11
図面区分	建築意匠図

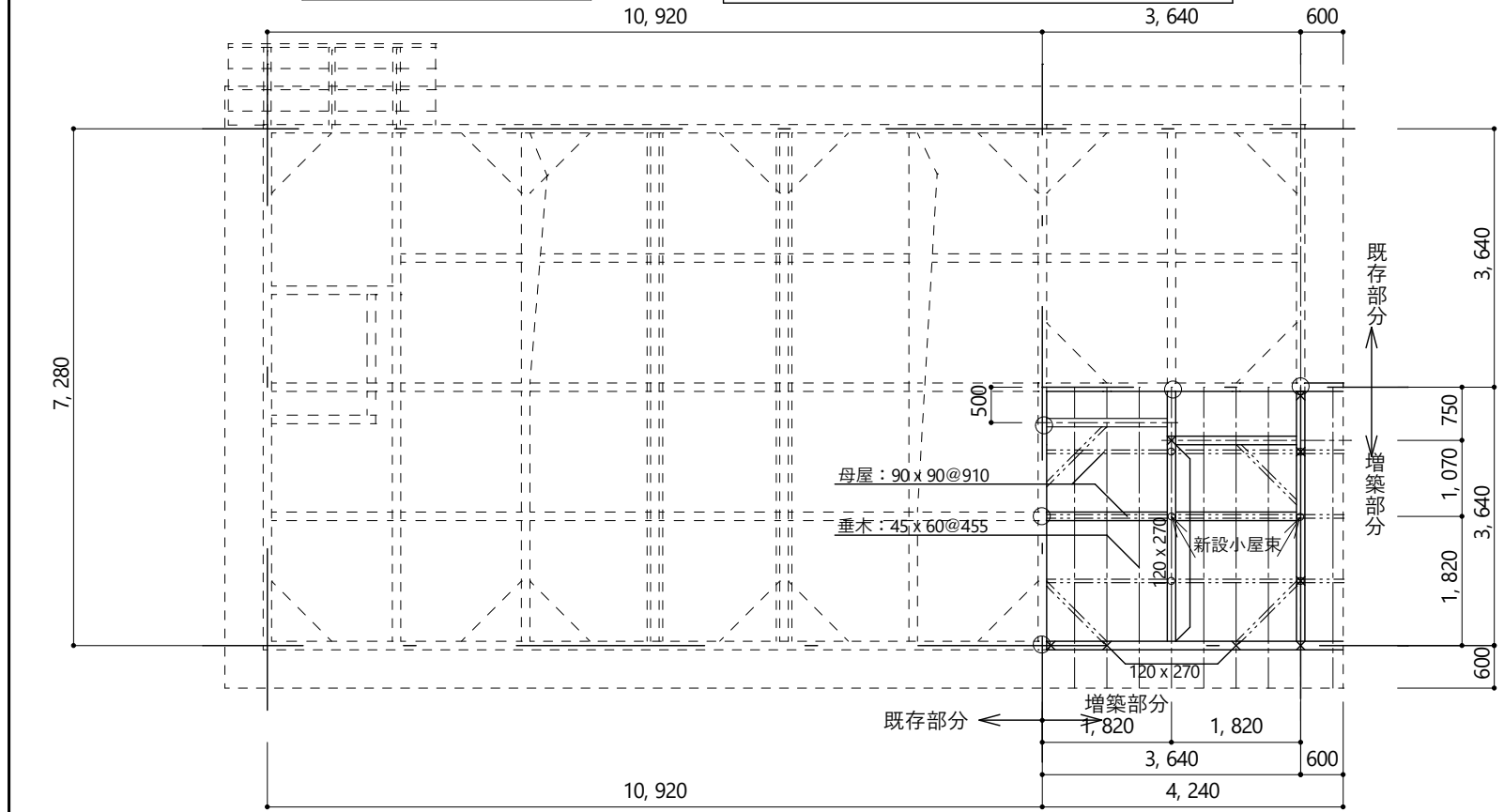


基礎伏図 S=1/100

床伏図 S=1/100

天井伏図 S=1/100

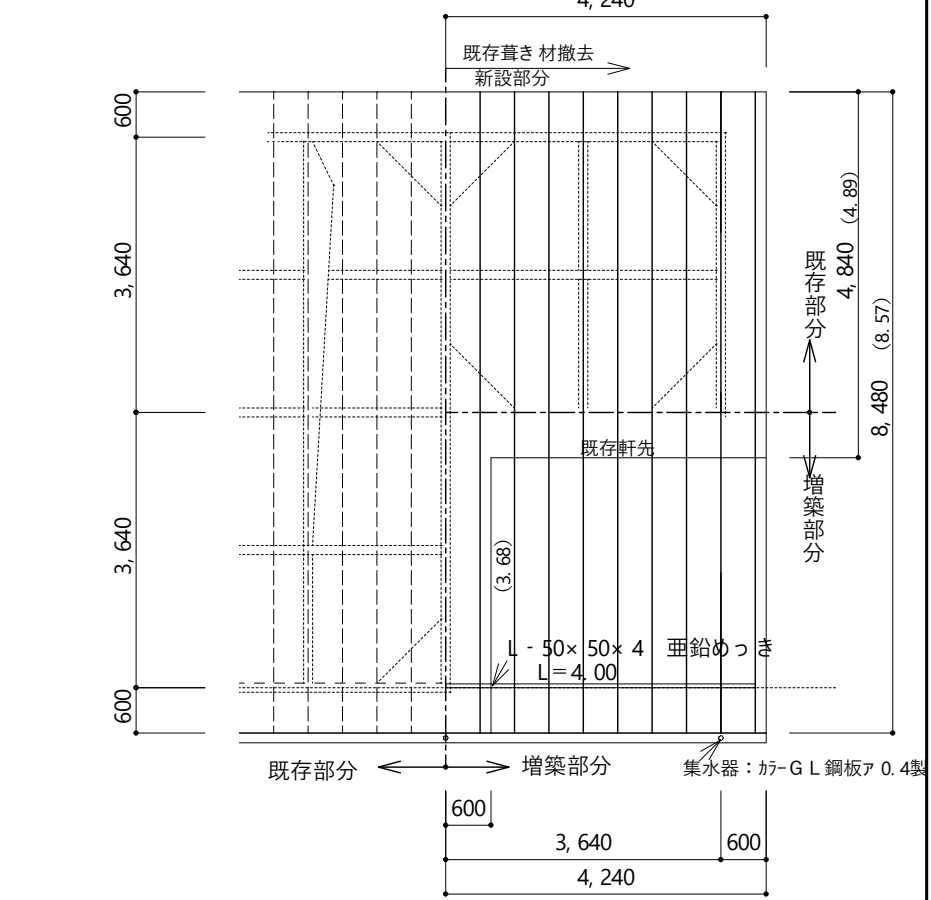
※地耐力：目視等による調査の結果、既存部分の地盤の沈下基礎の亀裂等が生じていないことから、地耐力を30kN/m²以上と判断する



小屋伏図 S=1/100

○ 既存取り付け仕口現場加工部分
 ※ 既存取り付け仕口及び繋ぎ部分の施工は公共建築木造工事標準仕様書及び施工基準による

部材リスト		
土台	120 x 120	米桐 (防腐防蟻材)
柱	120 x 120	杉
間柱	120 x 45	杉@455
軒桁	120 x 120	松
母屋	90 x 90	松@910
垂木	45 x 60	松@455
小屋束	90 x 90	松@910
胴縁	45 x 18	杉@303
火打梁	金物	4.0本
※特記ない部材：120 x 120とする。		

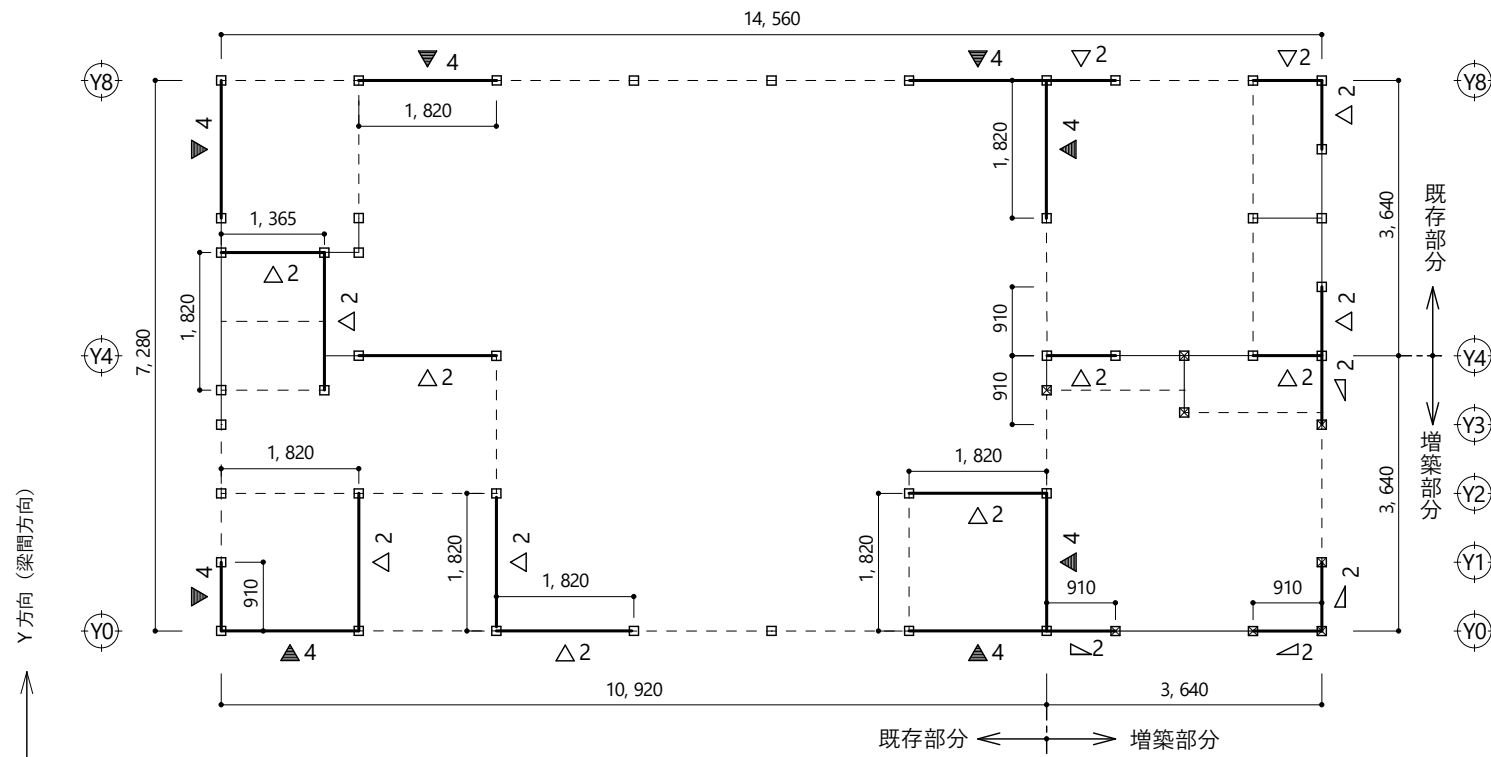


屋根伏図 S=1/100

記号	天井仕上材
A	化粧石膏ボード t=9.5mm
B	化粧石膏ボード t=9.5mm
C	珪酸加鈣板 t=5mm EP 仕上
D	同上 有孔板

ホルムアルデヒド発散等級区分 全て規制対象外 (F☆☆☆☆)

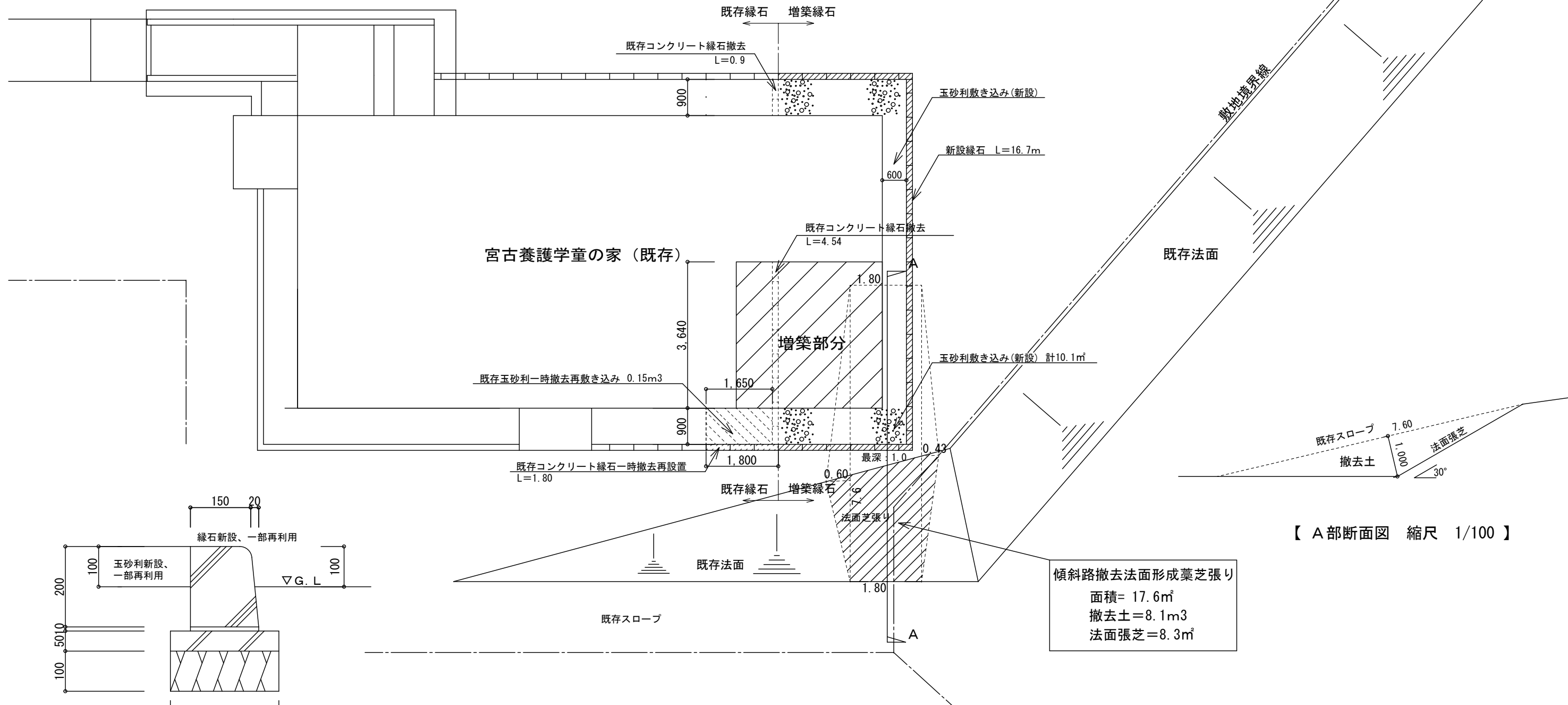
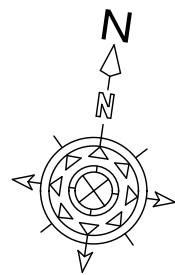
凡例 ▲ 既存筋違い：105×45（ダブル） 壁倍率：4
 △ 既存筋違い：105×45（シングル） 壁倍率：2
 ▽ 新設筋違い：105×45（シングル） 壁倍率：2



壁量計算		単位床面積当たりの必要壁量=0.14m (表計算ツール)				
床面積：既存床面積 = (10.92 × 7.28) + (3.64 × 3.64) = 92.74 + 増築床面積 = (3.64 × 3.64) = 13.25 延べ床面積 = 105.99㎡						
必要軸組長	地震時 X	105.99	×	0.14	= 14.83	- X方向必要軸長
	風圧時 X	21.28	×	0.50	= 10.64	
	区域係数=0.5 Y	47.17	×	0.50	= 23.58	- Y方向必要軸長
存在軸組長	壁量	X	1.82 × 4.0 × 4.0 = 29.12			53.69 ≧ 14.83 適
		Y	1.82 × 2.0 × 3.0 = 10.92			
		1.365 × 2.0 × 1.0 = 2.73				
		0.91 × 2.0 × 6.0 = 10.92				
		1.82 × 4.0 × 3.0 = 21.84			43.68 ≧ 23.58 適	
		1.82 × 2.0 × 3.0 = 10.92				
		0.91 × 4.0 × 1.0 = 3.64				
		0.91 × 2.0 × 4.0 = 7.28				

壁量釣り合いチェック							
1階	X方向			Y方向			
床面積の算定	S U	14.56 × 1.82	= 26.50	S L	7.28 × 3.64	= 26.50	
	S D	14.56 × 1.82	= 26.50	S R	7.28 × 3.64	= 26.50	
必要壁量の算定	L N U	26.50 × 0.14	= 3.71	L N L	26.50 × 0.14	= 3.71	
	L N D	26.50 × 0.14	= 3.71	L N R	26.50 × 0.14	= 3.71	
存在壁量	L D U	1.82 × 4.0 × 2.0 = 14.56 0.91 × 2.0 × 2.0 = 3.64	18.20	L D L	1.82 × 4.0 × 1.0 = 7.28 1.82 × 2.0 × 3.0 = 10.92 0.91 × 4.0 × 1.0 = 3.64	21.84	
	L D D	1.82 × 4.0 × 2.0 = 14.56 1.82 × 2.0 × 2.0 = 7.28 0.91 × 2.0 × 2.0 = 3.64	25.48	L D R	1.82 × 4.0 × 2.0 = 14.56 0.91 × 2.0 × 4.0 = 7.28	21.84	
壁量充足率の算定	γ U	L D U / L N U = 18.20 ÷ 3.71	= 4.90	γ L	L D L / L N L = 21.84 ÷ 3.71	= 5.88	
	γ D	L D D / L N D = 25.48 ÷ 3.71	= 6.86	γ R	L D R / L N R = 21.84 ÷ 3.71	= 5.88	
壁率比の判定	γ U / γ D	壁量充足率がどちらも1.0を越えているので OK			γ L / γ R	壁量充足率がどちらも1.0を越えているので OK	
	γ D / γ U	γ U / γ D >			γ R / γ L	γ L / γ R >	

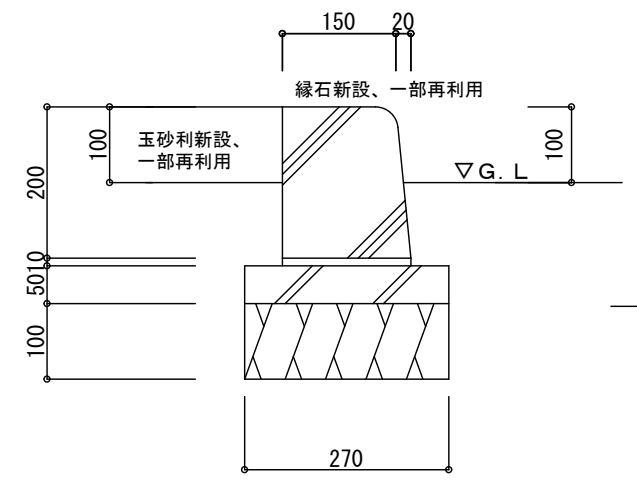
柱頭柱脚金物算定表 1階 (増築部分)											(柱頭柱脚金物：軸組の種類と柱の配置に応じ、H12建告第1480の表より選定する)	
柱	方向	柱状況	パターン	補正值	A 1	B 1	L	H 1	N	柱頭	柱脚	
1	X	地柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	0.6	2.700	0.65	(ろ)	(ろ)	
2	X	地柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	2.700	0.15	(ろ)	(ろ)	
3	X	地柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	2.700	0.15	(ろ)	(ろ)	
4	X	地柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	0.6	2.700	0.65	(ろ)	(ろ)	
			2.0 / \ 2.0	1.0	1.0			-0.10				
5	X	地柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	2.700	0.15	(ろ)	(ろ)	
6	X	地柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	0.6	2.700	0.65	(に)	(に)	
			4.0 × 0.0	0.0	4.0			1.40				
7	X	地柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	2.700	0.15	(ろ)	(ろ)	
8	X	地柱	4.0 × \ 2.0	0.5	2.5	0.5	0.6	2.700	0.65	(に)	(に)	
			0.0 × 4.0	0.0	4.0			1.40				
9	X	地柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	2.700	0.15	(ろ)	(ろ)	
10	X	地柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	2.700	0.15	(ろ)	(ろ)	
			2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.8	0.4	2.700	1.60	(ほ)	(ほ)	
11	X	出隅	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.8	0.4	2.700	1.60	(ほ)	(ほ)	
			0.0 \ 2.0	0.5	2.5			1.60				



【 A部断面図 縮尺 1/100 】

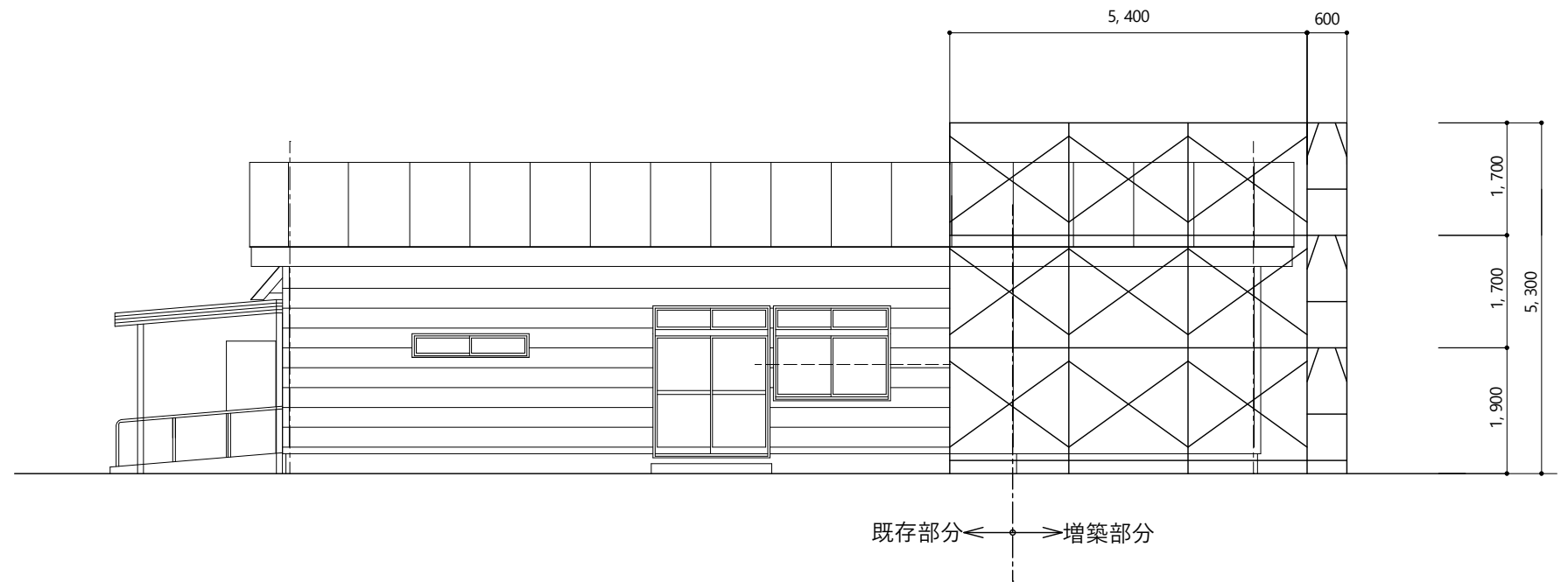
傾斜路撤去法面形成藁芝張り
 面積= 17.6㎡
 撤去土=8.1m3
 法面張芝=8.3㎡

【 外構図 縮尺 1/100 】

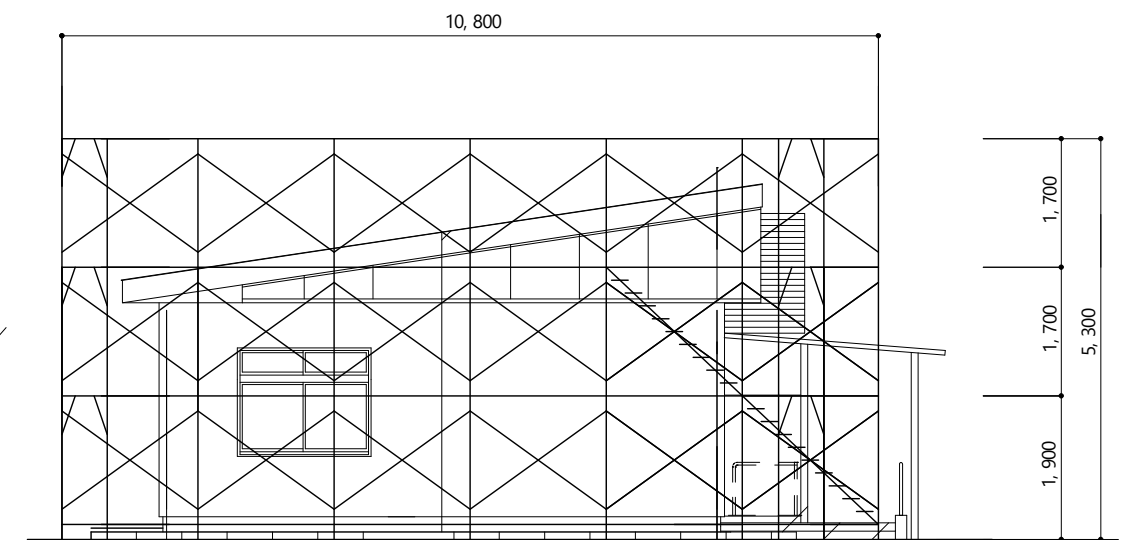


【 縁石断面図 縮尺 1/10 】

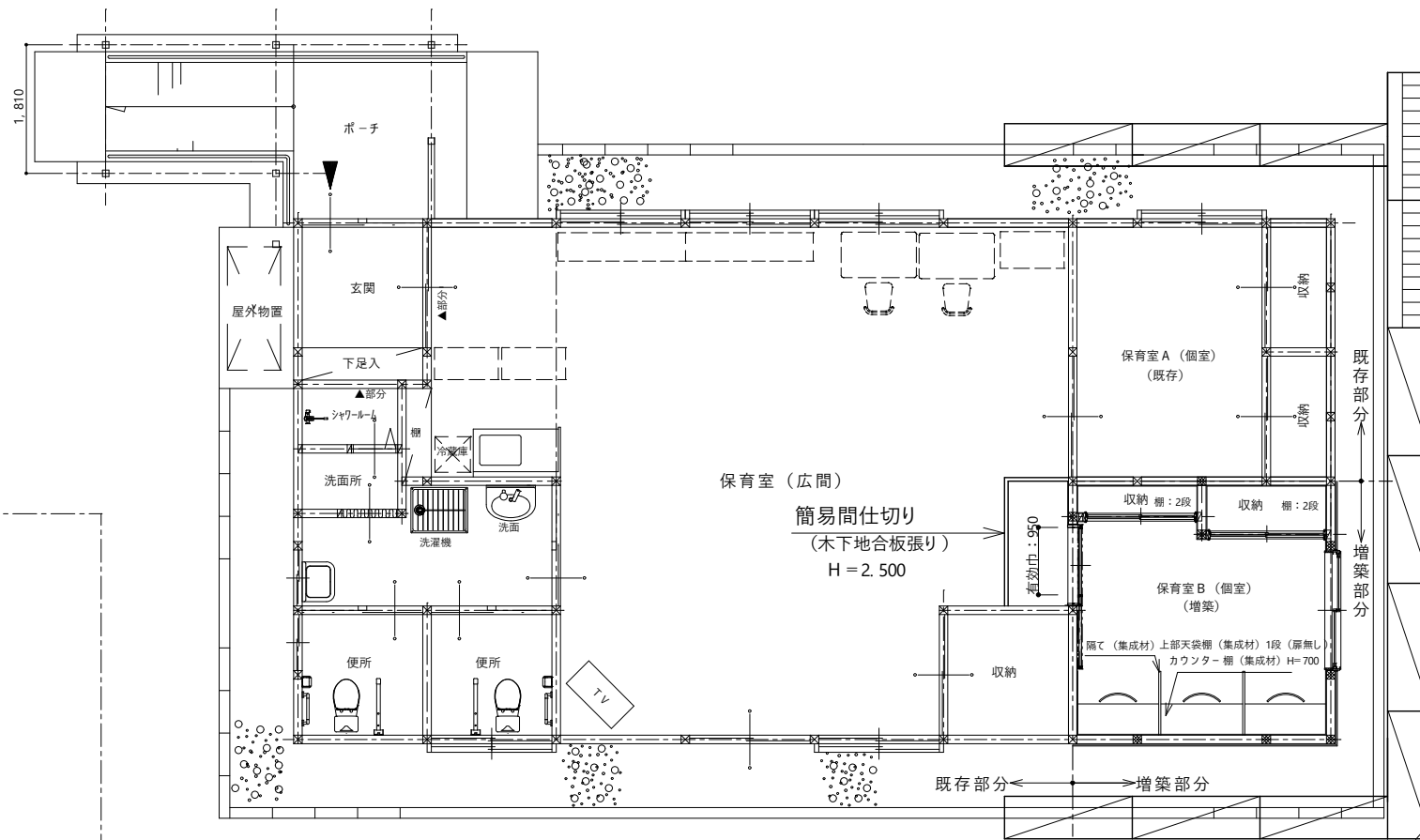
宮古市宮古養護学童の家増改築工事	管理建築士	承認	検図	製図	履行年月日	改定月日	改定内容	特記	図面内容 外構図	縮尺 A3 1:100 1:10	コード番号	00
											図面番号	A-16



【 南側立面図 (参考図) S=1/100 】

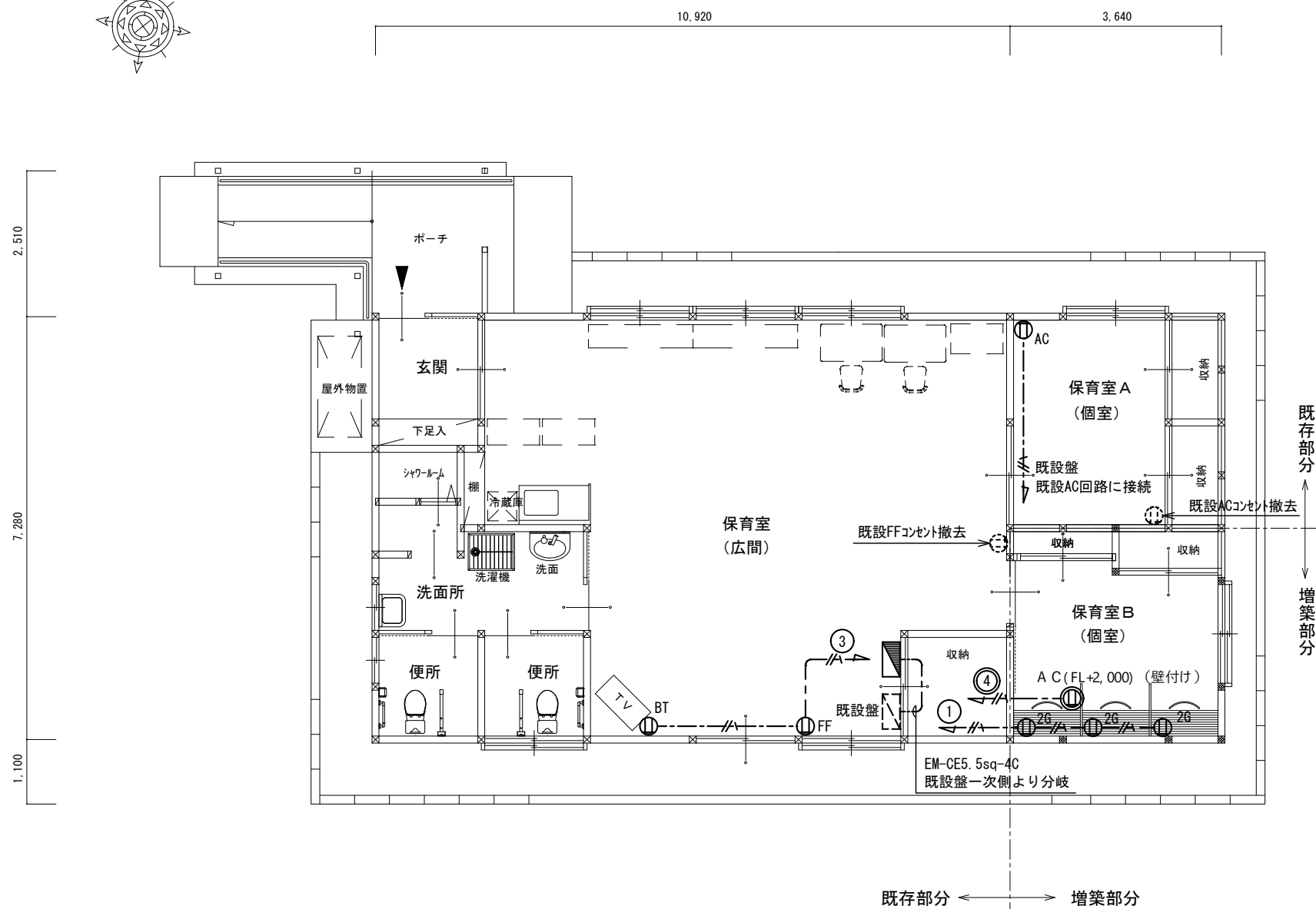
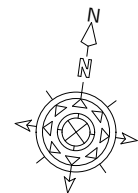


【 東側立面図 (参考図) S=1/100 】

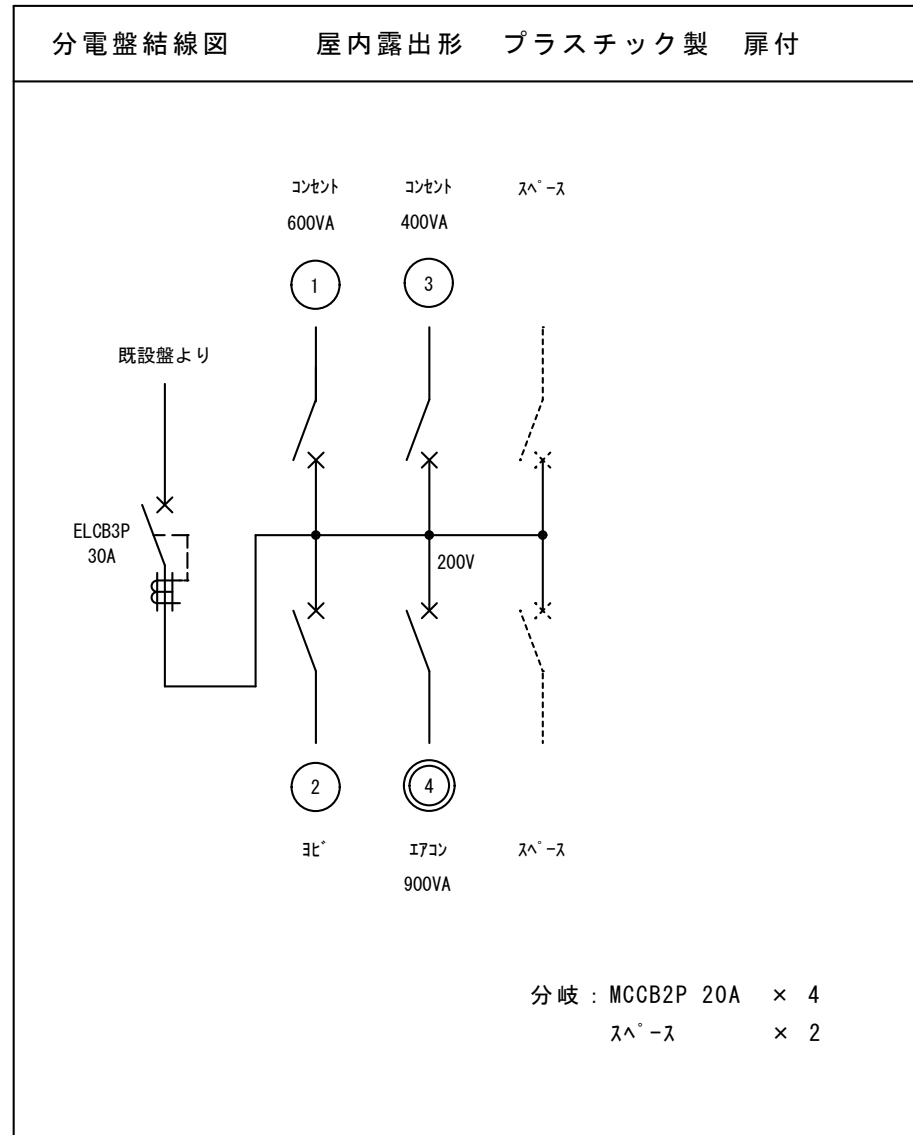


【 平面図 (参考図) S=1/100 】

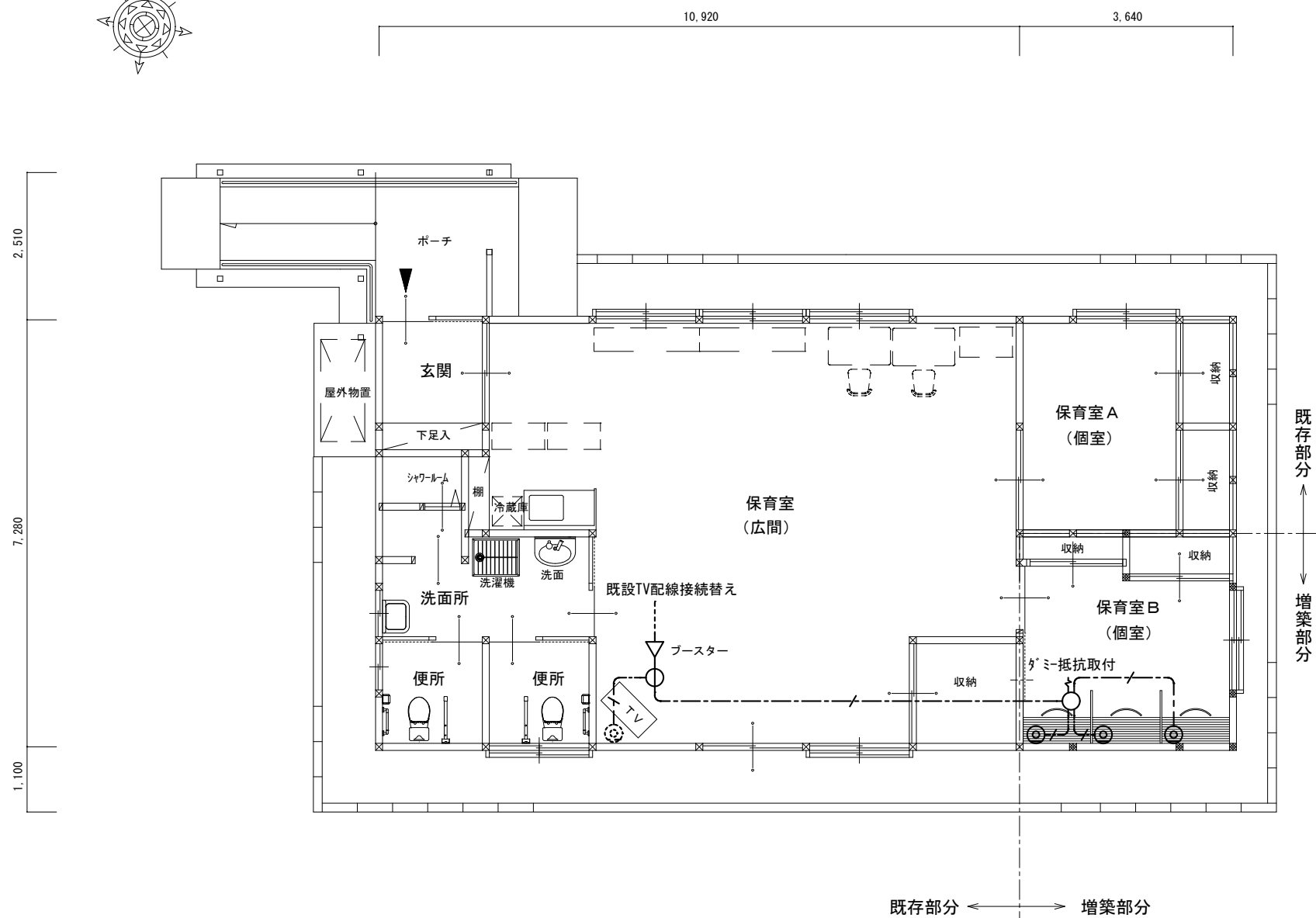
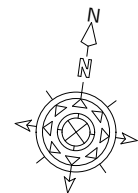
管理建築士	承認	検図	製図	履行年月日	改定年月日	改定内容	特記



コンセント設備図 S=1/100



特記事項	
1. 特記なき配線は下記による。	
EM-EEF2.0-3C	
※露出配線となる個所はワイヤプロテクタにて保護の事	
凡例	
	分電盤 結線図参照
	コンセント 2P15A-2 ガードプレート付 ※設置位置は監督員と協議の上決定すること。
	コンセント(エアコン用) 2P15/20A-1E ET付
	コンセント(エアコン用) 2P15/20A-1E ET付 200V
	コンセント(FF用) 2P15A-1E ET付
	コンセント(増幅器用) 2P15A-1E ET付



テレビ 共同受信設備図 S=1/100

特記事項		
1. 特記なき配線は下記による。		
-----/-----	EM-S5C-FB	
凡 例		
▽	増幅器	U/GS・BS
⊕	分岐器	SH-C1
⊙	分配器	SH-D4
⊗	テレビ アウトレット	SH-7F
⊗	既設テレビ アウトレット	
※設置位置は監督員と協議の上決定すること。		

